

中学部 生徒の将来を見据えたキャリア教育の実践
～基本行動の定着と主体性の育成を目指した授業実践～

1 はじめに

今年度、中学部では、昨年度に引き続き「生徒の将来を見据えたキャリア教育の実践」のテーマの下、～基本行動の定着と主体性の育成を目指した授業実践～をサブテーマとし、上岡一世先生の「キャリア教育の充実が特別支援教育の充実につながる」といった視点に立ち、学部全体の取組と学年グループでの取組に分けて授業実践を行い「生きる力・実社会に通用する力」の育成につなげようと考えた。

2 目的

○学部全体で、給食に関する内容を取り上げ、日々の生活の繰り返しの中で基本行動の定着につなげ自立した行動の拡充を図る。

○総合的な学習の時間のれんげタイムを中心に、清掃に関する内容を取り上げ、それぞれの学年の実態に合わせて清掃に関する知識を深め、技術を磨き、実践に生かせる力の育成を目指す。

上記の2点を目的とし、自分に必要な支援の理解につなげ、主体的行動の質を高めたいける授業実践を試みる。

3 方法

各学年部に分かれて取り組む。1年部では、掃除の基本的な仕方を身に付けることを目標に、自在ぼうきの使い方、机の拭き方、の実態把握を行い、床拭き検定や机拭き検定を独自に実施して、意欲の向上や技術の向上を目指した。2年部も、1年部と同様に掃除の仕方の基本について身に付けることを目標に、キャリアガイド教室を活用し、雑巾の畳み方、絞り方、机の拭き方について実態把握表を作成しそれを基に生徒の実態に応じた段階表の作成を行った。3年部では、1年次、2年次と段階ごとに目標を設定し、3年次は目的を持った清掃活動をテーマに「何のために掃除をするのか」を身をもって体験していくことで清掃に対する気持ちを育てる実践に取り組んだ。

(1) 目標設定、実践計画等の立案

(2) 授業実践・・・実践記録を蓄積する。

(3) 評価

- ・授業研究を行い、目標に対して達成できたかどうか評価する。
- ・課題の整理、まとめをする

4 清掃活動の取組

(1) 1年生の実践内容

目標	掃除の基本的な仕方を身に付ける	
取組	生徒の様子	備考
<p>○実態調査をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室を掃除する際にどんな手順で掃除を始めるのか生徒に問い掛けながら、実際に道具を使って掃除を行い、生徒の掃除の仕方を確認した。 <p>○教室の掃除の仕方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床を自在ぼうきで掃く。 ・床を雑巾で拭く。 <p>○道具の名前を覚え使い方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自在ぼうきの扱い方や雑巾の拭き方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室を掃除するために、最初に床をほうきで掃くことから始めるということを知っていた。 ・自在ぼうきを初めて見る生徒や使い方を知らない生徒、ごみの集め方を知らない生徒がほとんどだった。 ・床を掃いた後は、雑巾で床を拭くことは全員知っていた。 ・雑巾を硬く絞ることが難しい生徒や畳み方、床の拭き方を知らない生徒が多かった。 	 
<p>○自在ぼうき（床を掃く）の使い方を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい持ち方 持つ位置に目印を付けるなどする。 ・下がりながら掃く掃き方 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めと終わりが分かりやすいように床にテープを張り、線の間を掃く練習をした。後ろへ下がりながら掃くことが難しい生徒もいたが練習をしていく間にスムーズに行えるようになった。 ・持ち手を握る位置を自分の背丈に合わせて持つように意識することで扱い方が上達した。 	
<p>○床拭き（雑巾掛け）の仕方を統一する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雑巾を動かす方向 ・下がりながら拭く。 ・ジグザグに拭く。 ・支援の必要な生徒には下がるタイミングで、「カチカチ」の言葉掛けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・線と線の間を左から右へジグザグに拭くのはほとんどの生徒がすぐに行えた。 ・後ろへ下がりながら拭くことや、正確に線から線まで拭くことは難しい生徒もいた。動作に合わせて「カチカチ」と言葉掛けをすることで、線まで行ったら下がるという動作を意識して拭くようになった。 	

<p>○キャリアガイド教室の実施 (外部専門家による指導)</p> <p>①雑巾の畳み方 ②絞り方 ③持ち方 ④拭き方</p> <p>・①～④について専門家の指導を受ける。</p>	<p>・タオルを使って手のひらサイズに畳んでいく練習では、ほとんどの生徒が一人で行った。</p> <p>・机の上ではなく空中で畳むことに戸惑っていたが、全員で畳む回数や持ち方を確認しながら行うことで集中して取り組んだ。</p>	
<p>○高等部のキャリアトレーニングを見学する。</p> <p>・見学して分かったことを話し合い、友達と気持ちや目標を共有する。</p>	<p>・高校生の真剣な態度で練習に取り組んでいる姿を見ることができ、自分たちも将来、やるべきこととして受け止めることができた。</p> <p>・緊張感を持って、トレーニングの様子を見学した。</p> <p>・分からないことはきちんと質問して、疑問を解決していた。</p>	
<p>○机拭き選手権（検定）の実施</p> <p>・「机拭き選手権」として検定を行い、定着の度合いを確認する。(資料1参照)</p>	<p>・本物の検定のように実施したことで緊張感を感じながら活動した。合格したいという意欲が高まり、身に付けるスピードも早くなった。</p>	
<p>成果 課題</p>	<p>掃除の基本的な仕方を身に付けるために、机拭き、床拭き、自在ぼうきの使い方に絞って清掃に関する取組を見直した。技術はもちろん、特に意欲の向上に目を向けて目標を設定し、授業実践に取り組んだ。実態調査から始めたことで、改めて生徒の清掃に関する知識や技術の実態を知ることができた。拭き方や掃き方を「愛顔のえひめ特別支援学校技能検定」のテキストに沿ったものに学年全体で統一したことは、指導する側の教師が同じ基準や方法に関わることができた。また、高等部進学を見据えた共通意識を持って取り組んだ。</p> <p>「〇〇選手権」による検定を実施することで、意欲を高め、生徒が目標を持って清掃活動に取り組むことができた。また一人一人の習熟度も把握できた。</p> <p>今後は、さらに継続してスキルアップを目指し、学習したことを生活に生かせる技術や意欲につながる指導の工夫が課題である。</p>	

(資料1) 「床拭き選手権」「机拭き選手権」検定基準シート

選手権のときに検定の基準となるシートで、教員がチェックをする。

清掃 床ふき検定①		名前() (月 日)	備考
	ノック 名前 失礼します 礼		
	手をあげる はじめます		
	バケツに水を入れる 1/2 1/3		
	ぞうきんをしぼる 姿勢 縦しぼり		
	ぞうきんをたたむ		
	カチカチと後ろにさがり、ふく		
	最後は向きを変えてふく		
	ぞうきんをバケツの中であらう		
	ぞうきんをしぼる 姿勢 縦しぼり		
	ぞうきんを広げてかける		
	バケツをあらう しまう		
	失礼しました 礼		
	5 4 3 2 1 早さ (分 秒)		
	声 (大 中 小)		
	髪 爪 服 上靴 ハンカチ		
	総合(私語なく)		

清掃 机ふき検定②		名前() (12月15日)	備考
	キャリアガイド教室後改訂版 (バケツ・タオル用意)		
1	ノック 失礼します 礼		
2	手をあげる 名前 はじめます		
3	バケツに水を入れる 1/3		
4	台ふきんをたたむ 1/2 1/4 1/8		早い ふつう 遅い パラバラ
5	しぼる 姿勢 縦しぼり 5回 水滴		しぼり具合 ○ ○ △ ×
6	台ふきんの持ち方 左手の位置		撒ける バラバラの方向
7	机のまわりをふく(側面まで意識して)		
8	カチッカチッとジグザグにふく		
9	台ふきんをバケツの中であらう		
10	しぼる 姿勢 縦しぼり 5回 水滴		しぼり具合 ○ ○ △ ×
11	バケツの水を捨てる しまう		
12	台ふきんをバケツにかける		
13	手をあげる おわりました ありがとうございます ございました		
14	失礼しました 礼		
15	5 4 3 2 1 早さ (分 秒)		
16	声 (大 中 小)		
17	身だしなみ 髪 爪 服 上靴		

図1 「床拭き選手権」「机拭き選手権」検定基準シート

(選手権での様子)



写真1 机拭きの検定(机を拭く)



写真2 机拭きの検定(雑巾を絞る)



写真3 机拭きの検定(雑巾を畳む)



写真4 机拭きの検定(検定合格者)

(2) 2年生の実践内容

中学部1年時より清掃の仕方の基本について学習している。特に自在ぼうきと雑巾（机拭き）の使い方について学習をし、キャリアガイド教室で清掃会社の方から清掃の仕方について指導を受け、チェック表を用いて実態把握を行い、日々実践した。

目標	掃除の仕方の基本を身に付ける。	
取組	生徒の様子	
<p>○なぜ清掃をするのか (全国ビルメンテナンス協会作成の生徒指導用スライド参照)</p>	<p>ほこりやゴミで汚れている教室のスライドを見て、「汚い。」「勉強をする気になれない。」「嫌だ。」など否定的な意見が出た。その後、なぜ毎日清掃をするのかを考え、「気持ち良く過ごしたい。」という意見が出た。</p>	
<p>○自在ぼうきの使い方 ・持ち方 ・掃き方 ・ゴミの集め方 ・チェック表を用いた実態把握</p>	<p>キャリアガイド教室で学習した「スー・トン。」という言葉を用いた掃き方が分かりやすかったようで、多くの生徒が覚えた。初回チェック時は教師の支援があっても7割強の生徒しか正しく掃けていなかったが、2回目のチェック時にはほぼ全員の生徒が掃けるようになった。(表1、2参照)</p>	
<p>○雑巾の使い方 ・畳み方 ・絞り方 ・机の拭き方 ・雑巾の洗い方</p>	<p>2年生になり、机拭きの仕方について学んだ。清掃会社の方の話真剣に聞き、空中でタオルを畳んだり、どうすれば丁寧に絞れるようになるのかを質問したりするなど、意欲的に取り組んだ。</p>	
<p>○掃除検定 ・1～4級の段階を設けて検定を行った。 ・掃除派遣</p>	<p>チェックシート(資料1参照)を使用し、自在ぼうきの持ち方、掃き方、ゴミの集め方について一人一人チェックを行い1～4級に分けた。(表3) 1級を取得した生徒は教員から依頼を受け、他学級や階段、廊下などの清掃を行った。</p>	

表1 自在ぼうき掃き方(第1回)

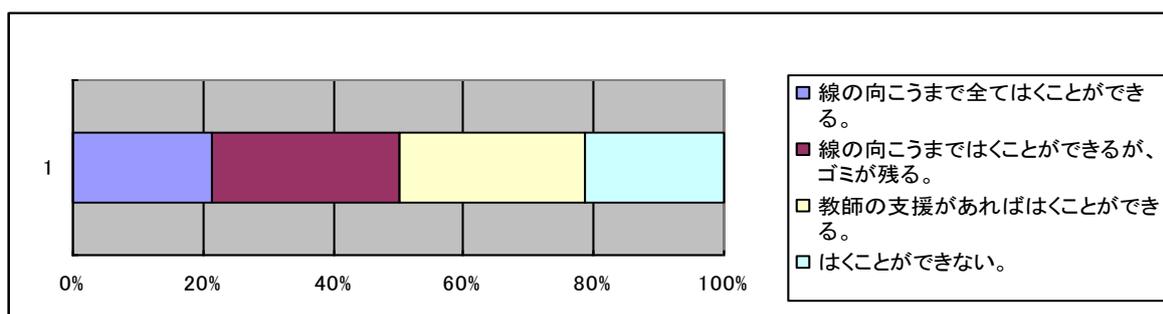


表2 自在ぼうき掃き方(第2回)

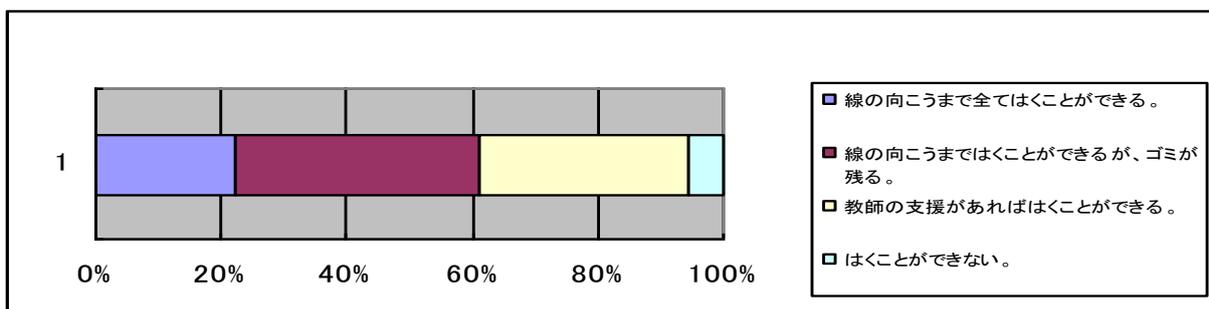


表3 中1掃除検定基準表

	ほうき	モップ	雑巾
1級	自分で正しく使用する。		
2級	自分で使用する。		
3級	教師の支援が少し必要。		
4級	教師の支援が多く必要。		

表4 掃除検定観点表

		名前			
1	ほうきの持ち方	正しい位置(右手が上、左手が下)で持てる。	印があれば正しい位置で持てる。	教師の支援があれば正しい位置で持てる。	持つことができない。
2	はき方	線の向こうまで全てはくことができる。	線の向こうまではくことができるが、ゴミが残る。	教師の支援があればはくことができる。	はくことができない。
3	集め方	ゴミを全て一カ所に集めることができる。	ゴミを集める動きはできるが、一カ所にまとめることができない。	支援があれば集めることができる。	集めることができない。

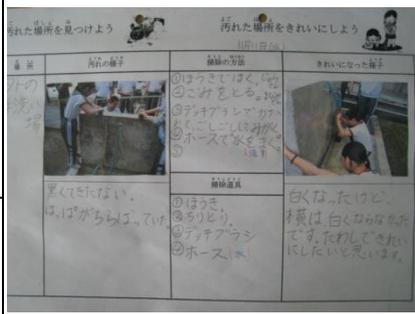
成果と課題

清掃時間での「スー・トン」の言葉掛けにより、研究開始前よりも自在ぼうきで掃く作業への意識が高まり、掃く技術が向上した生徒が増えた。ほうきを使ってみようという気持ちの生徒が増え、持ち方も自分で正しい位置を持つようになった生徒が多くなった。また、今まで机拭きを何気なく行っていた生徒が半数以上いたが、基本的な拭き方を覚えて以降、教師の言葉掛けがあれば、拭き残しのないように丁寧に拭く生徒が、6割程度に見られるようになってきた。

今後の課題は、キャリアガイド教室の中でアドバイスを受けた「大きなちりを集めると終わりになってしまうことがある。」ということに気を付けて、隅から隅まで掃くことを意識させることである。また、掃除をする意味や掃除をしてきれいになる気持ち良さを味わうことなどの大切なことを忘れずに、生徒が自信を持って意欲的に掃除を行っていきけるようにしていきたい。

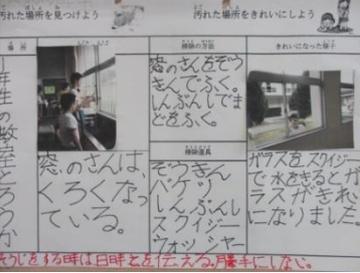
(3) 3年生の実践内容

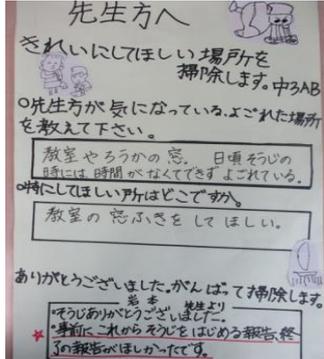
平成27年度の実践

目標	汚れている場所を探し、汚れの具合や掃除の方法について考える。	
取組	生徒の様子	
○汚れを探す。	<ul style="list-style-type: none"> ・カメラを持って楽しそうに校内を探し回った。 ・いつもは目を向けられない場所にも目を向け、「汚れ」を意識して探した。 	
○写真と文章で記録する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで撮った写真を見ながら、気付いたことを発表し合った。 ・気付いた点は、専用のプリントに記入して整理した。 	
○掃除の方法を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の目で汚れを確認したため、どのようにすればきれいになるのか考えやすかった。 	
目標	掃除をする前と掃除をした後の汚れを比較する。	
取組	生徒の様子	
○掃除をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃、使わない掃除道具（スポンジ、洗剤が入ったスプレー）に大変興味を持った。 ・スポンジやスプレーを使うことに慣れていないため、持ち方やこすり方を試しながら掃除した。 ・パイプ椅子は汚れが強いため、掃除をすればするほどきれいになっていった。 ・汚れが落ちるとやりがいを感じて、ますます熱心に掃除した。 	
○掃除をする前と掃除をした後の汚れを比較する。	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を見比べて、変化の様子を発表した。 ・屋外の手洗い場は、汚れが強いため、ブラシでこすると明らかに変化があり、どの生徒にも「きれいになったこと」が分かりやすかった。 	

<p>○汚れが落ちない場合の改善策を考える。 (キャリアガイド教室の活用)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的に順序良く説明をしてもらい、生徒はよく聞いていた。 ・手本を見て一人ずつ実習した。 ・後日、どの生徒も毎日の掃除に生かすことができた。 	
---	---	--

平成28年度の実践

<p>目標</p>	<p>学校がきれいになるよう心を込めて掃除し、みんなの役に立とう。</p>	
<p>取組</p>	<p>生徒の様子</p>	
<p>○掃除を通して学校の役に立てる方法を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と相談し、きれいにしてほしい場所をいろいろな先生に聞くことにした。 ・聞きたい項目をグループ内で考え、全員で意見を出し合った。意見を出し合うことで、適切な質問内容が出来上がっていった。 ・各グループで先生方に用紙を渡し、依頼した。(小学部、中学部の各学年等) 	
<p>○依頼通りの場所をきれいに掃除できるよう、汚れの確認と掃除方法を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・場所の汚れ方を確認し、各自で掃除の方法や道具についてまとめた。昨年度から継続しているため、生徒は要領よくまとめた。 ・掃除の分担をして、必要な道具をそろえた。足りない道具があった場合は、教師がヒントを出した。 	
<p>○依頼された場所を掃除する。(場所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中1の先生方より 教室や教室前の窓 ・中2の先生方より 階段、廊下の窓 ・中学部より 本館廊下の窓、玄関 ・小学部より 中庭、廊下の窓 	<ul style="list-style-type: none"> ・依頼された場所であるという意識があるため、「きれいにしよう。」という気持ちが強かった。 ・「きれいにしよう。」という気持ちがあるため、いろいろな道具を積極的に使った。日頃は使わない珍しい道具(熊手、ウォッシャー、くわなど)に興味を持って熱心に掃除した。 	

<p>○掃除をした後、依頼があった先生に確認を取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・依頼された先生に「きれいになった。」「ありがとう。」と褒めてもらったときはうれしそうであった。 ・事前に掃除の日時を連絡しなかったことを指摘されたときは、どうすれば良かったのかを全員で話し合った。 	
--------------------------------	--	---

結果と課題

平成27年度の目標は、自ら「きれいにしよう。」という気持ちを持ち、汚れた場所を自主的に掃除する生徒が一人でも増えることであった。生徒が「汚れ」に関心を持つように、カメラを持って校内の汚れた場所探しを行った。生徒の目を見て「汚れている。」と分かる場所は、かなり汚れが強い。汚れが強ければ強いほど、掃除をしたときに見違えるようにきれいになるため、生徒は「きれいになる。」ことを肌で感じた。行事の合間を縫い、限られた時間内での取組であったため、自主的に落ちているごみを拾ったり汚れている場所を掃除したりすることを身に付けるには、時間が足りなかった。

平成28年度の目標は、平成27年度に学んだことを生かして、人の役に立つ経験をすることである。依頼されるということは、やりがいや責任が伴う。毎日行う掃除とは意味が違い、生徒は「よりきれいにする。」ことを意識した。また「人の役に立つ。」ためには、賞賛や感謝だけでなく、間違いを指摘され反省するときもあるという経験もした。

いつでも身近にある「掃除」について、スモールステップの目標を設定し、3年間深く掘り下げて取り組んだ。生徒や私たちの周りにある身近なことの中に、生徒に目的意識や意欲を持って取り組める活動がたくさんあることを実感した。中学部では、将来、より質の高い日常生活を送ることができるよう、生活に必要な力についての分析が必要である。それを基に、生活単元学習や日常生活の指導、教科等の中で系統だった取組ができないか見直し、整えていくことが急務である。今後も中学部段階で育てるべき力が何であるのかを考え、高等部へ、そして社会自立につながる中学部三年間を充実したものにしていくための実践を重ねていきたい。

5 給食指導に関わる基本行動の定着への取組

(1) 1年生の取組

	取組の工夫	生徒の様子
配膳	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の配膳担当を決めた。 ・おかず・汁物・御飯・お茶・その他（箸・盆・牛乳）に分けた。配膳する物の見本を準備し、自分で適量をつぎ分けられるようにした。 ○配膳する物の担当教員を決めた。 ・生徒へ量や道具の使い方をマンツーマンで指導できる体制にした。 ・1学期は学年全体で、2学期後半より担当学級を決めて当番制にした。 	<p>学年全体で取り組んだ時より、クラス単位で配膳を行った方が生徒が自分の仕事内容が分かり、取り掛かりが早くなった。</p> <p>また、一人一人に任される仕事ができることで、その仕事内容のスキルアップにつながった。</p>
連絡	<ul style="list-style-type: none"> ○給食の準備完了を電話で連絡した。 ・電話でのやり取りを「配膳の準備ができました。」「食堂へ来て下さい。」の簡単な連絡内容で練習することができる。 	<p>最初は、台本通りのせりふを一方向的に伝えるだけの生徒も、電話口の相手の返事を待ってから、配膳準備完了の報告をするようになった。</p>
食事マナー	<ul style="list-style-type: none"> ○「好き嫌い無く食べる。」「残さず食べる。」「姿勢良く食べる。」「食器を持って食べる。」の四つの観点に着目して、給食の時間に言葉掛けを行い生徒の意識付けを行った。 ○教師間で具体的な基準を話し合った。四つの観点について共通理解を図った。 	<p>生徒の様子を見ながら、言葉掛けを行い指導を継続的に行うことで、自主的に食べる時の姿勢や苦手な食べ物などにも挑戦し残さずに食べる生徒が増えた。また、指導の際の言葉掛けが減り、楽しい雰囲気での給食をとる回数が増えた。</p>
手洗い	<ul style="list-style-type: none"> ○洗いの仕方の実態把握をする。 ○学年全体で手洗いの仕方を統一する。教員が同じ言葉掛けで指導をするようにした。手洗い歌を活用した。丁寧に洗うこと、日常生活にも生かし定着することを目指し取り組んだ。 ○定期的に「手洗い選手権」を実施した。 	<p>食堂へ来てすぐに手洗いをする習慣が身に付き始めた。手洗い歌を口ずさみながら行っている。手洗い選手権は生徒の意欲の向上につながった。また、選手権後は自主的に手洗いをする生徒も増えた。</p>
給食着	<ul style="list-style-type: none"> ○統一した畳み方を決めた。 給食着の肩や袖に印を付けて畳むときの目印とした。 ○「給食着選手権」を実施した。 	<p>給食着に目印を付ける、選手権を実施する等の工夫をすることで、一人で畳む生徒が増えた。</p>
成果と課題	<p>給食をおいしく食べることを大切にして、手洗い指導、配膳指導、給食着の着脱について、共通の支援を行えるように学年全体で取り組んだ結果、どの項目も生徒の意欲の向上が見られ、達成感を味わうことができた。「選手権」を行ったことで生徒が目標を持って取り組めた。この取組を継続して段階を追った指導ができるよう、整理していくことが課題である。</p>	

(2) 2年生の取組

	取組の工夫	生徒の様子
配膳	<ul style="list-style-type: none"> ・食器の並び替え練習の際、様子をテレビに映しながら行う。 ・見本シートを作成する。 ・食事の様子を撮影し振り返る。 ・見本シートを机に配置し、その都度確認しながら配膳した。 ・役割分担を分かりやすくするために、給食当番を2クラスで行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビに映すことで並び替えている様子をみんなで見て確認することができ、興味を持って取り組んだ。 ・見本シートを見て正しい位置を確認したり、その上に並べ替えたりすることで意欲的に取り組んだ。 ・ビデオに映っている自分や友達の姿を見て「かっこいい。」と言ったり「肘を付いているからだめ。」と言ったりし互いに確認し合う姿が見られた。 ・見本シートを見ながら配膳することにより、正しい位置に食器を置こうとする姿が見られた。 ・生徒一人一人の役割が明確になり、自分たちで準備をしなければいけないという意識が芽生えつつある。
手洗い	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭から正しい手洗いの方法について授業を受ける。 ・手洗い歌に合わせて正しく手洗いをを行う。 ・手洗いチェッカーを使い確認する。 ・「〇×クイズ」を行い、手洗いの必要性について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生面や健康に過ごすために、手洗いは大切だということを再確認することができた。 ・手洗い歌に合わせて行うことで楽しく手を洗う様子が見られるようになった。 ・洗い残しが目で見て分かりやすくなり、その部分を意識して手洗いを行おうとする姿が見られた。 ・クイズ形式で確認を行うことで興味を持って学習した。
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳が終わり席に着くと自分から食器の配置を直そうとする様子が見られるようになった。 ・見本シートを見たり、その上に並べていったりすることで一人でも自信を持って並び替えようとする生徒が増えた。 ・こぼさずに食器につぎ分けることが身に付くような取組を行っていきたい。 ・今まで取り組んできた内容についての定着を図りながら、自分たちで考え自主的に活動できることを目指して取り組んでいきたい。 ・実態に合わせたチェックシートの作成を行うことが今後の課題である。 	

(3) 3年生の取組

	取組の工夫	生徒の様子
配膳	<ul style="list-style-type: none"> ・学年全員ではなく、一学級ごとに行う。 ・いろいろなことが身に付くよう、どの生徒も学期ごとに役割を交代する。 ・こぼしたときは、自分で後片付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人数が少なくなったことで作業ペースが生まれ、配膳がしやすくなった。 ・経験を重ねることで、分量やこぼさないことを意識した。 ・後始末の方法を覚えた。 ・こぼしたら自分で後始末をするということが身に付いた。
後片付け	<ul style="list-style-type: none"> ・食器は、陶器同様に扱う。 ・周囲を汚さないように片付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音を立てないように、食器をバケツに片付けるよう気を付けた。 ・残飯やごみを床に落とさないように捨てた。 ・ストローやごみが落ちていたら、教師の言葉掛けにより拾った。
食事マナー	<ul style="list-style-type: none"> ・公共の場で通用するマナーを身に付ける。 ・席に着くときには、配膳をしなかった学級が、配膳をした学級にお礼を言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手に持って食べる食器と、そうではない食器があることを知った。どの食器も持ち上げることが習慣になっている生徒が多い。 ・公共の場でも「準備をありがとうございました。」と言う生徒がいた。
手洗い	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭から正しい手洗いの方法について授業を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一日に何回もしている行為だが、手を洗うことの大切さについて、改めて考える機会になった。
給食着の着脱	<ul style="list-style-type: none"> ・机を使わずに畳む方法を身に付ける。 ・配膳が終了したことを確認してから着替える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エプロンの縫い目を手掛かりに畳むことが身に付いた。 ・配膳が終わりかけると、教師の方を見て、着替えてもいいかどうか確認を求めるようになった。
成果と課題	<p>公共の場（校外学習、修学旅行など）で、正しいマナーを守ることができるよう、教師は日頃から意識して支援する必要がある。また給食で使う食器はプラスチックであるが、日常生活では陶器の食器を使う頻度が多い。生徒の将来を考えると、食事に限らず日常生活を意識した支援が重要である。</p>	

6 まとめ

中学部でこれまで取り組んできた基本行動の定着を目指した実践は、私たち教師の意識を新たにした。基本行動の中でも、手洗い、配膳、机拭き等の給食に関する一連の取組において、小学部から引き継いだチェックシート(表5参照)の活用による実態把握を行い、一人一人の実態に応じた課題設定を行うことができた。その結果、教師が生徒に求める課題が明確となり、課題をクリアするための方法の工夫がそれぞれの学年部で見られた。また、小学部から中学部へと同じ視点で子供を捉え、指導・支援が継続されるという取組ができたと言える。給食時の机拭きでは、清掃に関する取組の中で、外部の講師を招いて行ったキャリアガイド教室での指導を生かして、各学級で一人一人丁寧に指導することができるようになった。これは、方法が分かり、目標が明確になったことによる教師の意識の持ち方の変化と言える。

また、清掃に関する取組では、技能検定受検に向けた高等部の取組をきっかけに、中学部段階で育てたい力について考えた。そこで、具体的な場面を取り上げ清掃に絞って、その指導・支援の在り方について学年単位で取り組んだ。特に、3年生は1年生のときから3年間掛けて取り組んできた。生徒の中には、清掃に関する技術の向上はもちろん、意識の変化も見られた生徒もいた。主体性を育てることは、難しいことであるが、今回の取組によって生徒の生活のいろいろな場面において、「自分から」とか「誰かのために」という気持ちが少しでも芽生えたことは一つの成果と言える。清掃への取組を通して、生徒の生活が広がり、友達や周りの人との関係性を作っていくことが、少しでもできるようになったことは、今後の生徒の行動や学習において大きな力となっていくと思われる。

これからも、継続した指導と教師間の共通認識を大切に、基本行動や主体性に目を向けた指導・支援を考えていきたい。

給食準備に関するチェックシート		名前 ()			
● 学期の係とその様子を記入。					
1 学期の係					
2 学期の係					
3 学期の係					
9月頃に実際にいろいろな役割をさせ、チェックする。12月上旬にはもう一度チェックする。項目の削除、追加については実施の9月にチェックをして指導員に報告する。					
※ (一人で・・・) 指示・・・ 指導・・・ 介 未実施・・・未 通過・・・) と記入する。					
項目	12月	3月	学年		
● エプロンを着る。					
● 手を洗う	「おねがい」のポーズ。				
	「カミ」のポーズ。				
	「お山」のポーズ。				
	「オヤカミ」のポーズ。				
	「バイク」のポーズ。				
「つかまえた」のポーズ。					
泡を流す。					
● 手を拭く。					
● 消毒をする。					
● おしぼりや箸をケースから出す。					
● 食器を運んで自分のお盆へ置く。					
● お盆に一人分ずつ配る。					
● みんながそろそろまで待つ。					
● 「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをする。					
● 手づかみで食べる。					
● 道具を使って食べる。					
● 一口の大ききものを噛んで食べる。					
● 適量を噛みきって口に取り込む。					
● よく噛んで食べる。					
● パンをちぎって食べる。					
● ストローをさす。					
● 飲む。					
● ストロー					
● コップ					
● 口やげり					
● 黒物の皮をむく。					
● 容器を開ける。					
● 正しい姿勢					
● 背筋を伸ばす。					
● 肘をつかない。					
● 食器を持つ。					
○ マナーを守る。					
● 口を閉じて噛む。					
● 食事中は席を立たない。					
● 時間内に食事をする。					
● 手や口をおしぼりで拭く。					
● 好き嫌い無く食べる。					
● 主食と副食を交互に食べる。					
● 箸が落ちたら洗ってくる。					
○ 要求を伝える。					
● おかわり。					
● 減らす。					
● ごちそうさま。					
● 食器の片付けをする。					
● 丁寧に食器を扱う。					
● エプロンを畳む。					
● テーブルを拭く。					
● 音を届く。					
● 水を口に含む。					
● 飲まずに吐き出す。					
● フクフクうがいをする。					
● お盆を並べる(席の並び口)。					
● 名前カードと先生カードを置く(座席表と対応させる)。					
○ 配る。					
● 1杯1対応。					
● 順番に。					
● 指定された席ずつ。					
● 先生の席を見分けて配る。					
○ つく。					
● 1杯1対応。					
● 見本を見て。					
● 指定された席ずつ。					
○ 見本と同じ量。					
● しゃもじ。					
● おたま。					
● トング。					
● お茶をつく(適量をこぼさず)。					
● 自拭きをめらして各テーブルに配る。					
○ 報告。					
● 終わったことを伝える。					
● 余ったことを伝える。					
● 足りないことを伝える。					
● ※ハンカチやおしぼりは、置んではいけない。					

表5 給食配膳に関するチェックシート